

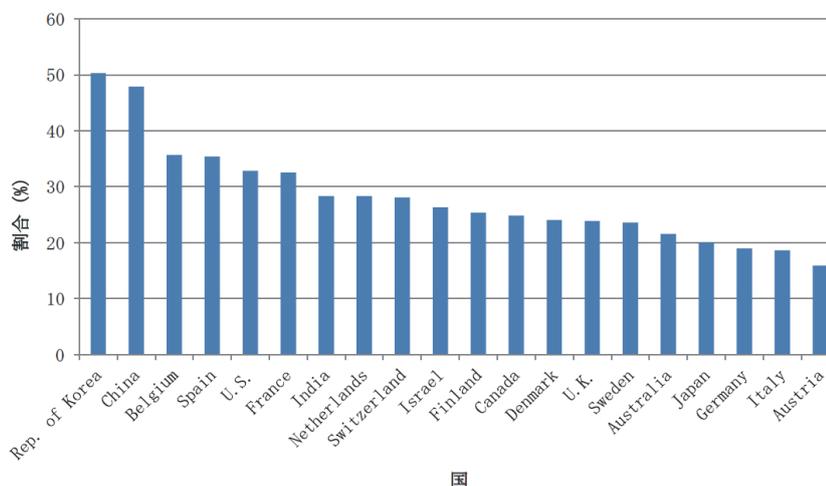
について1つのPCT出願（発明）に参画した発明者の中に少なくとも女性が1人含まれたPCT出願の割合を調べ企業ランキングを作成しました。その上位5社を下に掲載しました（表1）。ベスト5以内には日本企業はランクされていませんが、30位内を見ると17位に日立化成株式会社（42.6%）、20位に花王株式会社（40.4%）が入っていました。

表1：PCT出願に女性発明者が含まれた割合（2017年）（上位20カ国、企業別）

企業	国	割合
LG CHEM, LTD.	韓国	72.5%
F. HOFFMANN-LA ROCHE AG	スイス	69.1%
L' OREAL	フランス	67.3%
DOW GLOBAL TECHNOLOGIES INC.	米国	63.3%
HENKEL KOMMANDITGESELLSCHAFT AUF AKTIEN	ドイツ	61.5%

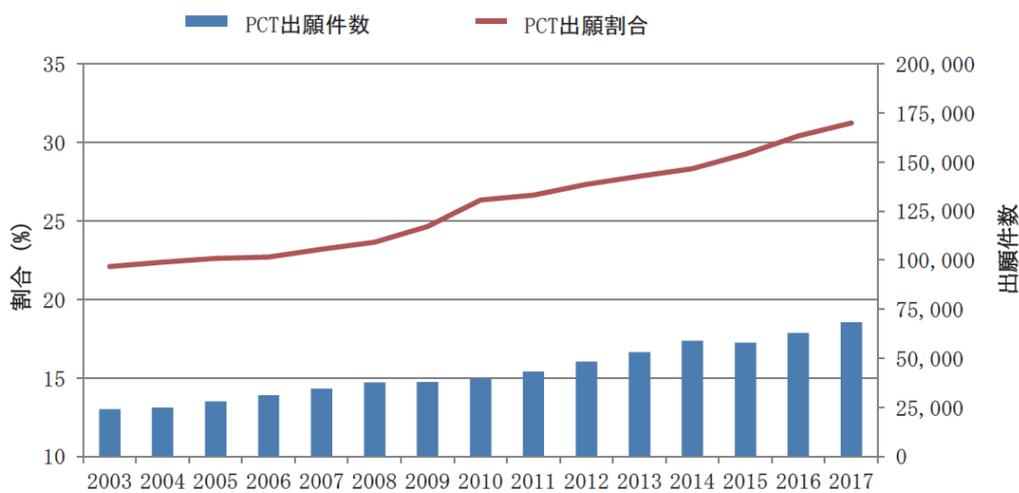
また、下のグラフ1は、同様の条件で2017年出願上位20カ国について国ごとにPCT出願に女性発明者が含まれた割合が大きいほうから並べたランキングです。第1位は韓国(50%)、次いで中国(48%)そして日本は第17位(20%)に入っています。日本からのPCT出願は2017年は世界で第3位と件数では多いのですが、女性発明者割合ランキングでは日本が下位(17位)なのはなぜでしょう？本稿ではグラフを掲載していませんがWIPOによる業種、技術分野ごとの女性発明者割合（PCT出願に女性発明者が含まれた割合）の分析では、バイオ（58%）、創薬・製薬（56%）、有機化学・農薬（55%）などの分野で高く、他方、電気分野、機械部品（14%～25%）では低くなっています。ところが、業種、技術分野ごとの発明の生まれやすさなどの特性上、前者の化学分野では特許出願が少なく後者の電気分野、機械部品の分野からの特許出願が多い傾向があります。このような2つの傾向を前提にさらに、日本からは自動車などの機械分野、電気分野からの出願割合が他の国に比べて多い特徴が重なり、結果的に女性発明者割合が低い出願が多くを占め、日本の順位を押し下げる結果となっていると見ることができます。日本の産業構造に近いドイツは日本の次で18位(19%)であり、筆者がWIPO統計分析部のドイツ人の同僚と話した時にはこの分析の見方で一致をみました。

グラフ1：PCT出願に女性発明者が含まれた割合（2017年）



以上、2017年の企業別ランキング、国別ランキングを紹介しましたが、次に、この分析を長期的に世界規模で見てください。次のグラフ2の折れ線が、2003年（22%）から2017年（31%）の女性発明者が含まれたPCT出願の比率の推移を示します。2017年まで、女性発明者が含まれたPCT出願が着実に連続して右肩上がりで増えていることがわかります。すでによく言われていることではあります。先進国のトレンドとして産業構造の変化、第4次産業革命（IoT、AIの利用）、また日本国内のトレンドとしてワークライフバランスへの意識の高まり、政府レベルでの女性参画への取組（女性が輝く社会づくり、女性活躍に資する働き方改革など）により社会全体として女性参画が進み、それに並行して女性発明者が含まれるPCT出願の比率も次第に50%に近づくと予想されます。

グラフ2：女性発明者が含まれたPCT出願



最後に、本稿をお読みいただいた方々が2019年4月に世界知的所有権の日（4月26日）を思い出し知的財産が日常生活で果たす役割について認識を高め、発明家や芸術家による世界中の社会の発展への貢献をあらためて思い起こしていただければ幸いです。

注)

- 1) <http://www.wipo.int/ip-outreach/en/ipday/> (World IP Day)
- 2) <https://www.jpo.go.jp/seido/rekishi/1304-111.htm> (特許庁ホームページ 世界知的財産の日)
- 3) http://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2018/article_0003.html (統計出典：WIPO Press release 2018)